



さとう あきこ
佐藤 晃子さん

酒田保育園の保育士として活躍。
現在、0～1歳児のたんぽぽ組の担任を務める。

保育士

エッセンシャル・ワーカーの声

緊急事態宣言中も、そして今も最前線に立ち、
私たちの暮らしを支えているエッセンシャル・ワーカーたちの現場の声を紹介します。

新 年度が始まったばかりの4月7日、緊急事態宣言が出されました。3月から、町内の幼稚園・学校は休園・休校となっていました。保育園は開園し続けていました。**保護者の力に**
「保護者の中にも、コロナ禍の社会を支える職業についている方がいます。感染リスクの恐怖心以上に、保護者の力になりたいという思いの方が強かったです。」と話すのは、保育士の佐藤さん。

ら、在宅ワークや休業になった保護者の理解と協力もあり、登園する子どもの数は半数になりました。
休んでいる子どもの保護者と連絡を取った際、励まされる出来事があったそうです。「保護者から『先生、ありがとう。頑張ってください。』と声をかけられたことがあります。皆さんも不安を抱えているはずなのに、励ましの言葉をいただき、心強かったです。」と嬉しそうに話します。

心は密に
酒田保育園では、6月末まで登園自粛していますが、緊急事態宣言の解除とともに、預かるお子さんが増えていきます。
3密を避けることが難しい保育園。特に0～1歳児は抱っこが必須です。園で行っている対策を聞くと「感染症対策を見直したり、子ども同士の接触が少ない遊びを工夫したり、できる限りの対策を行っています。」と佐藤さん。
「ソーシャルディスタンスを保つように心がけますが、子どもたちとの心は密にして接していきます。」と笑顔で語りました。



▲感染防止をしながらも、子どもたちが楽しめるように工夫を凝らす

保育園内で行われている感染対策の方法

消毒



▲普段から行っている消毒は、回数を増やし、消毒の範囲を広くしている

換気



▲熱中症予防のため、冷房を使用している場合、換気はしっかり行っている

入室制限



▲送迎時の感染対策のため、保育室に保護者は入らない

私 たちの生活に欠かせないライフラインの一つである、ごみ収集作業。感染者の増加が続いた緊急事態宣言中も、いつもと変わらず、ごみ収集を担っていただきました。
感染リスクと向き合う中で
「外出自粛でご家庭にいる方が多いためか、ごみの量が通常よりも1.5倍に増えたように感じました。」と話すのは、ごみ収集作業員の小金さん。
通常、ごみ収集車3台で出勤するところ、4台に増やしての作業になったとのこと。



▲あしがら環境保全(株)の皆さん

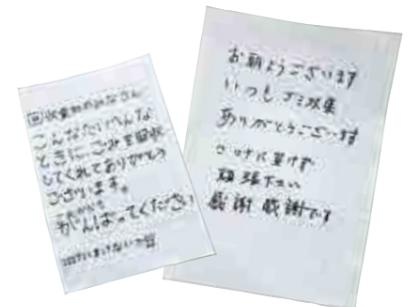
「マスクや手袋の着用など、できる限りの対策をしましたが、ごみ袋の縛り方が甘く、使用済のマスクやティッシュが落ちていたり、ごみ袋が破れたりすることがあり、少し怖かったです。」と胸の内を語ります。
感謝のメッセージが励みに
「感染リスクとは隣り合わせですが、『誰かがやらなければいけない』という使命感を常に持っています。」と小金さん。
緊急した現場での作業中、ごみ置き場などに感謝のメッセージが寄せられることも。「皆さんの温かい気持ちに励みになりました。これからも皆さんの生活を支えられるよう、感染防止に努めて作業にあたります。」



こがね ひろ
小金 邦弘さん

あしがら環境保全株式会社でごみ収集作業員として活躍。
開成町をはじめ、足柄上地域の作業にあたる。

ごみ収集作業員



▲作業員に寄せられた感謝のメッセージ

1 使用済みのマスクやティッシュをビニール袋などに入れます。
※マスクを捨てる時は、ひも部分を持って顔からはずし、表面に直接触れないようにします。

2 ビニール袋を密閉してから指定ごみ袋に入れます。
※収集車での圧縮時、破裂を防ぐため、指定ごみ袋にはごみを詰めすぎないようにしてください。

マスクの捨て方に注意!

「自分が感染しているかもしれない」という意識を持つことが大切です。
ご家族の方やごみ収集作業員の方などへの感染を防止するために、使用済みのマスクやティッシュの捨て方について、皆様のご協力をお願いします。

いわね まさかず
環境上下水道課 岩根 正和